

# 会報

## 第 47 号

発行

一般財団法人 鳥取市社会教育事業団  
鳥取市吉方温泉3丁目701番地  
(鳥取市文化センター1F)  
TEL・FAX(0857)21-0865  
E-mail:myqyy947@ybb.ne.jp

印刷

(有)福井印刷

### 想像力は言葉に支えられている

理事長 住川 英明



令和六年能登半島地震で被害に遭われ、お亡くなりになられた方々に、深く哀悼の意を表しますとともに、今も心身を痛め、不自由な生活を送っておられる方々には、心よりお見舞いを申し上げます。

私たち鳥取市社会教育事業団は昨年九月に、郷土シリーズ41『鳥取の震災―あの日から80年過去から学び備える今―』を刊行し、あわせて鳥取市、鳥取県東部広域行政管理組合との共催により、出版記念シンポジウム・鳥取市防災フォーラムを開催して、一九四三年に鳥取を襲った震災についての、学術的な調査・研究の成果を公にしました。そして、これからの私たちの地震災害との向き合い方について、市民の皆さんと情報を共有しました。

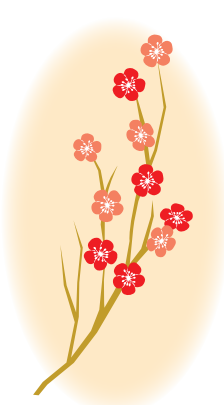
本格的な復興はむしろこれからのことであり、今は私たちが因州の地にあつてできることを、いろいろと模索しなければなりません。また、今回のような災害のリスクは、ここ山陰でも同じようにありますから、非常時における交通やライフラインの不全などについて、日頃から高い関心を持っていたいものだと思います。

ただ、正直に告白すると、過酷な状況にある方々の心の痛みを、私は自分のこととして十分に受けとめることができないうです。私は、一九六四年に発生した新潟地震を経験していますが、当時は幼かったせいか、激しい揺れや液化化の惨状は記憶していても、被害に遭われた方々の苦しみや悲しみにまで想いが及びません。それは残念ながら、成年になってこの地で経験した、阪神淡路大震災や鳥取県西部地震、中部地震についても同様です。

『鳥取文芸』第四十五号の特集、「鳥取地震80年忘れえぬ記憶」を読み返してみると、見通しをもつことが難しいなかで、それでも生活を立て直さなければならぬ苦しみ、かけがえのない家族や友人を失った悲しみといったことが、八十年の時を経て、言葉を通して確かに、しかも切々と伝わってきます。そのとき、他者の言葉に耳を傾けること、自分の感じたことや考えたことを言葉にしようとするこの大切さを、今さらのように痛感するのです。想像力は言葉に支えられているもののように思います。

本事業団の活動は、文化・芸術などの多方面にわたりますが、そのうちの一つに、市民の皆さんが、言葉を工夫し、発信し、楽しむためのお手伝いをするところがあります。そのことが自分を理解し、他者を理解するための大切な出発点となるに違いありません。一見したところ、地味な活動ですが、生活を確かなものにするためには、欠くことのできない活動だと考えています。

私たちは、今後も元気に、活発に活動を進めてまいります。市民の皆様のご理解とご支援をお願いする次第です。



一般俳句部門

「座」を楽しむ



西村 ゆうき

この度は、思いがけなく鳥取文芸賞という大きな賞を頂き大変驚いております。

初学の頃は即興で五句作って応募していましたが、ある時先輩に「二十句ほど作って、その中から良い句を選んで出すものだ」とたしなめられ、それから応募を止めていたのですが、自宅には応募要項が毎年届きました。今思うと、そのことが途切れていた気持ちをまた投句へと繋いでくれたように思います。時を経てふと出した作品が、前年は市長賞に、今年文芸賞に選んで頂くこととなり、毎年届くご案内があれば再び応募することはないかと思えます。

わたしが俳句を始めたのは遅く、母の死に際しこの気持ちを何かの形に残したいと思ったのがきっかけです。身近におられた俳句経験者の方を中心に、初心者の公民館句会を立ち上げ、白岩敏秀先生にお出で頂きました。先生には俳句の一步から教えて頂き、その丁寧で温かなご指導のお陰で俳句が楽しく、折々の自然の移ろいに目が向くようになりました。俳句は「座の文芸」と言われ、皆が作品を持ち寄って、その場で褒められたり直されたりしながら研鑽します。また、たった一文字を変えるだけで素晴らしい作品になる面白さがあります。良き仲間

鳥取文芸賞受賞喜びのことば

まれ、自然豊かな地で俳句を続けられるのは幸せなことです。

これからも師の後について、俳句の道をまっすぐに歩み続けて参りたいと思います。

この度はほんとうに有難うございました。

小学生 短歌部門

鳥取文芸賞を受賞して

遷喬小学校

六年 岡本 航



このたびは、鳥取文芸賞という素晴らしい賞をいただきありがとうございます。正直に言う、僕は国語が苦手な短歌や俳句を作るのも得意ではありません。だからこんなに大きな賞が取れて、僕自身が一番ビックリしています。

青い空 変幻自在の変身者

白き物が今も変わってる

この短歌は国語の時間に作りました。何も思い浮かばなくてふと窓の外を見た時、雲が風に流れていく様子が見えました。その雲が変幻自在に姿を変える様子が面白くて、白き変身者に例えて歌にしました。下の句はなかなか思いつかなかったのですが、友達と一緒に考えてくれて、形を変え続ける雲の様子をうまく表現できました。友達にもありがとうを伝えたいです。

鳥取文芸賞の受賞は、短歌が苦手な僕にとって励みになったし、短歌がちょっと好きになりました。本当にありがとうございました。

中学生 短歌部門

ありのままに

青翔開智中学校

二年 西根 楓

この度は、鳥取文芸賞という輝かしい賞をいただき、誠にありがとうございます。

私の家には二匹の猫がいます。どんなに疲れている時も気持ちが沈んでいる時もこの二匹を抱き締めれば、癒され前向きな気持ちになります。でも猫は単純な生き物ではないので、急に人が変わった、いや、猫が変わったかのように嘔み付いてくることがあります。

猫撫でてゴロゴロとなきこ機嫌だ

がぶり噛まれて「え、なんでやねん」

私が作った短歌は表現や技法に趣向をこらした、きらびやかなものではないかもしれませんが。しかし、私の猫への愛を素直に書き留めた短歌です。この短歌に出会い少しでも笑顔がこぼれ、元気になると、とても嬉しいです。



私はよく自分の意見よりも他人の意見を優先してしまいます。それは、意見のぶつかり合いを恐れ、嫌われるのが怖いからです。

しかしこの短歌を作り、噛み付いても嫌われることなど恐れない猫のように、周りの目など気にせず、もっと「自分」というものを出していきたいと感じました。

このたびは誠にありがとうございました。

高校生 俳句部門

鳥取文芸賞を受賞して

鳥取湖陵高等学校

二年 井上 唯和

たんぽぽや ひとり笑ひの ひとり咲き くらがりの なかに椿の 紅一つ

私は今でも、鳥取文芸賞を受賞したことへの実感がわいていません。この二つの句は、友達と一緒に、他愛もない雑談をしながら、軽い気持ちで作った句だったからです。「春の花つて何？」「たんぽぽでいんじゃないかね？」なんて話している時、ふとこんなことを思いました。たんぽぽは春に全盛期を迎える。これは「笑い」。その後は綿毛となり子孫繁栄のために自らは散る。これは「泣き」。人生じゃん。かっこいいじゃん。そして、そんなことを思う自分自身が、何だかかっこいいじゃないかと、ゾクゾクしたことを覚えていきます。

何気ない会話や発想から言葉が生まれ、その言葉に向き合い、自分自身と向き合い、言葉を紡ぐことで作品が生まれる。その作品を読んでくださった審査員の皆様には何かを感じていただいた。今回の受賞でそのことに改めて気づき、言葉の力の可能性に感動すらおぼえました。



私に、この経験の場を与えてくださった全ての皆様に、心からの感謝を申し上げます。この度は鳥取文芸賞という栄誉ある賞をいただき、本当にありがとうございました。



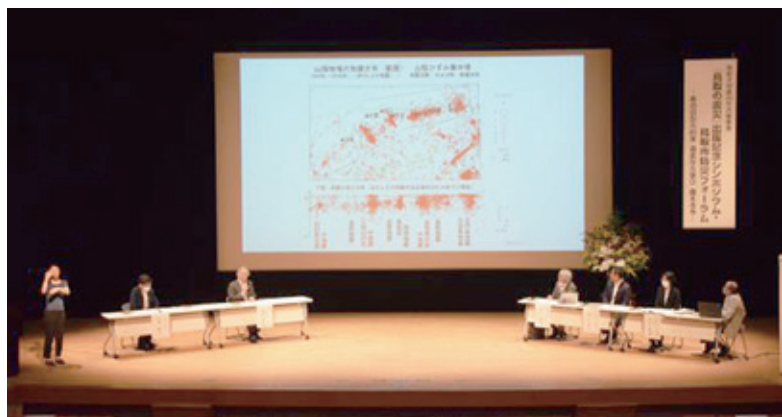
# 『鳥取の震災』出版記念シンポジウム開催

約二年半、都合十二回の編集委員会を経て、郷土シリーズ第四十一巻『鳥取の震災』が完成しました。その出版を記念し、令和五年九月十日に文化ホールでシンポジウムを開催しました。

市内外から百四十五名の参加者を得て、八十年前に起きた未曾有の大災害について、執筆者がそれぞれの分担執筆内容と現在の研究・調査の動向について解説しました。その中で百十一枚の写真によって鳥取地震の真相に迫ろうとしたこと、山陰地域の古代から現在に至る地震の歴史を初めてまとめたこと、西部地震・中部地震について最新の知見による分析結果を示したことなど、本冊は今までにない、画期的集大成であることが明らかになりました。そして、今後起こることが予想される南海トラフ地震への備えについても確認がされました。会場からもいくつか質問が出され、時間が不足するほどの盛会でした。併催された鳥取市防災フォーラムと共に、市



民の皆様の防災意識の向上に一石を投じ、鳥取市社会教育事業団の存在を印象づけられたのではないかと思います。



## 知事、県教育長に出版報告・贈呈

一月九日に住川理事長と櫻井事務局長とで県庁を訪ね、平井伸治知事と足羽英樹教育長に鳥取地震に係る今年度本事業団発行の二冊の書籍について出版報告を行い、併せ贈呈をいたしました。

た。

知事からは、「防災を考える時に、私たちは過去の被害と向き合わなければなりません。そういう意味でも今回はとても貴重なお仕事をさせていただきました。行政の仕事をする際の資料として、また、教育面での教材として活用すべきだと思えます」とのお言葉をいただきました。



## 千代田会様『鳥取の震災』を市内全小中学校に寄贈

千代田会様が市内全小中学校に『鳥取の震災』を贈られました。そのうち市立学校分の贈呈式が一月十九日に鳥取市教育委員会で行われ、尾室高志教育長が代表で受け取られました。上田稔千代田会会長のお言葉

一人でも多くの生徒、先生に読んでいただき、八十年前の大地震の教訓を今後の防災に役立てていただきたい。能登地震は何か運命を感じる。明日は我が身という思いでいる。

荒田潤之介(株)千代田工務店社長のお言葉  
公共工事の仕事をいただいている。

地域への恩返しのお気持ちで贈りさせていただいた。先代の社長が鳥取地震に出遭って家の下敷きになり、母親に助け出された経緯がある。この本に出合っ、これはいい本だということ。小中学校全部へお贈りすることにした。児童生徒や学校関係の方々には役立っていただけたらと思う。

## 尾室高志教育長のお礼のお言葉

八十年前の地震のことは、私をふくめ子どもたちにはなじみがない。しかし、このたびの能登の地震被害を目の当たりにして、子どもたちは地震のこわさを知ったと思う。学校では毎年防災訓練を実施して初動や避難経路の確認をしているが、実体験は子どもたちにはない。この本を活用して、当時の人の心に寄り添いながら、助け合い思い合う心、命を大切にする気持ちを改めて見つめることが大切だと思ふ。



\* 千代田会

株式会社千代田工務店とその協力企業で構成される団体で、社会貢献活動に積極的に取り組まれている。

令和5(2023)年度 鳥取市社会教育事業団 賛助会員の皆様 \*敬称略

Table listing members and their details, including names, roles, and affiliations. The table is organized in columns and rows, with member names in bold. The last row includes a thank you message: 'ご支援誠にありがとうございました'.

◆お知らせとお礼◆

表紙絵画家山根文字子氏より一般応募者へのプレゼントとして、作品「Being」を寄贈していただき、抽選のうえ岡野清子様へ進呈いたしました。山根様、ありがとうございました。



◆令和五年度役員・評議員紹介◆

◎役員

- 理事長 住川 英明
理事 八村 輝夫
理事 金児 利明
理事 河崎 誠
理事 中井 英子
理事 櫻井 修
理事 藤本 英興

◎評議員

- 常務理事 縫谷 昌生
監事 尾室 高志
評議員 山本憲二郎
評議員 安藤 隆一

◆あしがき◆

今年度は『鳥取の震災』を刊行し、『鳥取文芸』では鳥取大震災の体験記を特集しました。いずれも売行き好調です。後世に残すべき画期的な出版ができたかと思えます。鳥取養護学校生徒による本帯もポップも大好評でした。これらを弾みに今年も新しい企画に向います。ご期待ください。

(事務局長 櫻井)